

事務事業評価シート

(平成 25 年度実施事業)

事務事業名	埋蔵文化財発掘調査事業			事業コード	0928
所属コード	208500	課等名	[教]教育機関 遺跡の 学び館	係名	
課長名	袖上 寛	担当者名	北田 牧子	内線番号	3077
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	共に生き未来を創る教育・文化	コード	4
	施策	歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用	コード	5
	基本事業	歴史的文化遺産の保護と活用	コード	1
予算費目名	一般会計 10 款 6 項 6 目 盛岡遺跡群発掘調査事業 (003-01) 一般会計 10 款 6 項 6 目 埋蔵文化財調査事業 (004-01) 一般会計 10 款 6 項 6 目 盛南開発地区埋蔵文化財発掘調査活用事業 (005-01) 一般会計 10 款 6 項 6 目 埋蔵文化財確認調査事業 (006-01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	年度	
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

文化財保護法に基づき、市内の遺跡について、開発等に際し、事前調査（立会・試掘）を実施。その成果を記録し、報告書等に掲載し、併せてその成果を発表する展示会・講座等の普及事業を行うものである。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

当市では文化財保護法に基づき、昭和 55 年から国庫補助を導入して個人住宅建築や原因者負担による宅地造成工事に伴う事前緊急調査を実施してきた。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

震災直後から低迷していた県内内陸部での個人及び共同住宅の新築・増改築による試掘・本調査の増加傾向が想定される。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が、何が対象か）

各種開発等により失われようとしている埋蔵文化財

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 見込み
A 発掘調査が必要な開発事業件数	件	21	22	10	15	14
B 事前調査が必要な事業件数	件	66	60	—	96	96
C						

(3) 25年度に実施した主な活動・手順

- ①市内の埋蔵文化財発掘調査及び記録保存
- ②盛南地区の調査成果に基づく遺跡活用事業

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 本調査件数	件	10	5	9	12	3
B 調査面積	m ²	15,500	15,615	16,828	11,435	18,666
C 調査報告書の刊行件数	件	1	4	4	4	6

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

失われる遺跡を記録保存するとともに、地域住民に対し、地元の歴史や遺跡への理解を高めてもらう。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 発掘調査を実施した遺跡数／ 発掘予定遺跡数	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input checked="" type="checkbox"/> 維持	%	47.6	22.7	100	92.3	100
B 本報告及び館報で報告された遺 跡数／発掘調査遺跡数(地点数)	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	66.6	20	50	33.3	100
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	25年度実績
事業費	① 国	千円	15,860	12,643	10,920	10,776
	② 県	千円	444	746	600	456
	③ 地方債	千円	0	13,700	11,700	11,700
	④ 一般財源	千円	10,567	12,450	6,197	6,039
	⑤ その他()	千円	24,754	0	0	5,769

	A 小計 ①～⑤	千円	51,625	39,539	29,417	34,740
人件費	⑥ 延べ業務時間数	時間	4,940	6,932	7,000	7,395
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	19,760	27,680	28,000	29,580
計	トータルコスト A+B	千円	71,385	67,219	57,417	64,320
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている

理由：貴重な歴史遺産を次世代に伝えるための業務として、調査を行っている

② 市の関与の妥当性

妥当である

理由：法定事務である。 *文化財保護法の規定に基づく。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である

理由：開発に伴う緊急調査の場合は開発区域の最小限の範囲で調査が行われ、その方法によって拡大や縮小が行われる性質のものではない。なお、過去に本調査を実施し、報告書（記録保存）未刊行のものについても対象となる。

④ 廃止・休止の影響

廃止の場合は影響がある

理由：調査は法に定められたものである。また、開発とは表裏一体のものであり、開発が続く限り調査の廃止・休止はあり得ないとされる。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

向上の余地あり

理由：成果を広く市民等に公表する義務がある。

(3) 公平性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

受益機会の適正化余地及び受益者の費用負担の適正化余地は公平・公正である

理由：開発側にとって、市直営の場合と民間調査機関導入では経費的に大きな隔たりを生じる。

(4) 効率性評価

事業費の削減余地⇒削減できない

自治体が調査主体となった場合は、調査員人件費は含まれないが、民間委託の場合は全て含まれ、高額な調査経費を要する。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

その 1：現在進行中の沿岸における被災地の高台移転用地造成に伴う緊急発掘調査では、調査員不足や調査期間の大幅削減の必要性から、民間調査機関導入も検討されている。

その 2：全面委託については、県教委の同意が必要となり、財団法人的組織への委託のみ移行が考えられる。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

その 1：保全されている史跡・遺跡や地域の歴史文化遺産の保護活用業務へシフトする必要がある。活用にあたっては、文化財としてのポジションの維持のみならず、地域の歴史・文化を活かしたまちづくりの素材として活かしていくべきと考える。

その 2：改善にあたっては史跡調査職の確保が急務となる。大規模開発等の緊急発掘調査や経済情勢の回復に伴い増加する民間小規模宅造発掘調査、調査後の報告書作成においては遅延のない速やかな対応(刊行)が必要とされるため、史跡調査に精通した知識と技術を持つより専門的な人員の確保及び適正な配置が重要である。

課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

平成 25 年度は、前年度に引き続き、沿岸被災地応援として 1 名を大船渡市へ派遣し、4 人の文化財専門職で公共事業及び一般住宅建設にかかる試掘などの業務を行ってきたが、健康面での制約を抱えながらの職員についても外へ出た業務に対応するなど学び館一丸となった対応が取れてきていると感じることが出来た。

本年度も、被災地沿岸派遣 1 名による減員体制での業務対応であるが、健康面での制約がある職員が、これまでの内勤から「試掘調査立会い」等への業務対応に取り組んでいることから今年度の業務についても概ね順調に推移するものと考えている。ただ、職員の中には、今後の業務加重によっては健康面での悪化が心配とのこともあることから、一定の業務内容の調整も必要となる。

なお、これまでの沿岸派遣により、被災地での埋文調査にかかる報告書の作成について大船渡市から要請されている事案についても対応していかなければならないと考えている。

また、これまで課題とされていた、文化財専門職の高齢化による人材の確保については、今後も想定される沿岸派遣や市内における埋蔵文化財への調査業務の対応のため喫緊の課題である。